

## 在宅医療・介護連携に関する施設調査 ご協力をお願い

平素より、在宅医療・介護連携の推進にご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

大阪市では、市民が高齢期においても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、介護保険法に基づく「在宅医療・介護連携推進事業」を実施しております。

このたび、日ごろより在宅医療にご尽力いただいております皆様のご意見をお聞かせいただき、在宅医療と介護の連携における課題や多職種間の連携を図るための基礎資料及び評価指標を得ることで、今後の取り組みに活かしていけるよう、調査を実施させていただくことといたしました。

ご協力いただいた調査の内容は、全て統計的な数値として取りまとめたくえ、現状・課題分析等のみに活用し、個別の機関や個人に関する内容を公表することは一切ございません。

関係機関の皆様におかれましては、ご多忙の中大変恐縮ではありますが、本調査の主旨をご理解いただき、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、本調査については、(株)富士通総研に委託して実施しております。

平成 30 年 2 月

(調査実施主体) 大阪市健康局

健康推進部健康施策課

電話：06-6208-9940

### (1) 調査票について

・本調査票は、在宅患者訪問薬剤管理指導料を届出している大阪市内の全ての保険薬局にお送りしております。

・調査票は【施設票】と【個人票】の2種類あります。

施設票...管理者の方が施設としての状況や意向等をご回答ください。

個人票...管理者（管理者が在宅医療に従事していない場合は在宅医療に従事している他の薬剤師の方）が個人としての主観をご回答ください。

### (2) ご回答について

・設問をお読みいただき、選択肢の中であてはまる番号に をつけてください。

・設問によっては数値をご記入ください。

・必要に応じて自由記述欄（ ）にもご記入をお願いいたします。

### (3) 返信方法について

・FAX、Web、郵送、のいずれかの方法でお送りください（裏面にそれぞれの提出方法を記載しております）

・特に断りのない場合は、平成 30 年 2 月 1 日現在の状況についてお答え下さい。

・ご回答は、郵送の場合は平成 30 年 3 月 7 日(水)までにポストに投函を、FAX 及び Web の場合は平成 30 年 3 月 9 日(金)23 時 59 分までに送信・入力をいただきますようお願いいたします。

## 1 . FAX で回答する方法

調査票に回答をご記入頂き、以下の番号までお送りください

【 03-5401-8402（受信専用 FAX）】

## 2 . Web で回答する方法

以下の URL にアクセス頂き、案内に添って各設問にご回答ください

【 <http://www.zaitakuosaka.jp> 】

TOP 画面で施設の種類を選択してください

最初に、同封の調査票の右上に記載されている 6 桁の番号を入力ください（関係者外の回答防止のため）

回答内容の途中保存はできませんので予めご了承ください

## 3 . 郵送で回答する方法

調査票に回答をご記入頂き、同封の返信用封筒にてご郵送ください

切手を貼らずにそのままご投函ください

< 本調査に関するお問合せ先 >

調査票の内容について 株式会社 富士通総研（本調査受託事業者） 担当 赤田

電子メール：akada.keigo@jp.fujitsu.com

電話： 03-5401-8416（専用ダイヤル）

FAX： 03-5401-8402（専用 FAX）

在宅医療・介護連携推進事業調査【保険薬局 -施設票-】  
**管理者の方がご回答下さい**

(1)あなたご自身の立場【1つに】		(2)ご自身の訪問薬剤管理指導の通算経験年数				
1 管理者	2 管理者以外の従事者	およそ 年				
(3)あなたは、ご自身の仕事に満足感を感じていますか。【1つに】		1.感じて いる	2.やや 感じている	3.あまり 感じていない	4.感じて いない	
		1	2	3	4	
(4)あなたは、地域の他職種・他機関と、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。【1つに】		1.連携 できている	2.やや連携 できている	3.あまり連携 できていない	4.連携 できていない	
		1	2	3	4	
(5)あなたが職務を行う地域での状況についての質問です。あなたご自身について、最もあてはまるもの1つに つけて下さい。		1.そう 思わない	2.あまり そう 思わない	3.どち らでも ない	4.少し そう 思う	5.そう 思う
他の施設 の関係者 とやりとり	患者(利用者)と一緒にみている他の施設の関係者に知りたいことを気軽にきける	1	2	3	4	5
	一緒にみている患者(利用者)のことで連絡をとるときに、躊躇(ちゅうちゆ)せず連絡ができる	1	2	3	4	5
地域の他の 職種の 役割	一緒にみている患者(利用者)のことで連絡のとりやすい時間や方法が分かる	1	2	3	4	5
	患者(利用者)に関わる地域の他の職種の困っていることがだいたいわかる	1	2	3	4	5
地域の関係者の 名前と顔・考 え方	患者(利用者)に関わる自分以外の職種の動き方が実感をもってわかる	1	2	3	4	5
	患者(利用者)に関わる自分以外の職種の出来ることわかる	1	2	3	4	5
地域の多 職種で話 し合う機 会	地域で患者(利用者)に関わっている人の、名前と顔、考え方や方針がわかる	1	2	3	4	5
	地域で患者(利用者)に関わっている施設の理念や事情がわかる	1	2	3	4	5
地域の相 談できる ネットワ ーク	地域で患者(利用者)に関わっている人の、性格、つきあい方がわかる	1	2	3	4	5
	患者(利用者)に関わるいろいろな職種が直接会って話す機会がある	1	2	3	4	5
地域のリ ソース(資 源)	普段交流のない多職種で話し、新しい視点や知り合いを得る機会がある	1	2	3	4	5
	地域連携に関して、課題や困っていることを共有し話し合う機会がある	1	2	3	4	5
病院と地 域の連携	患者(利用者)に関わることで、気軽に相談できる人がいる	1	2	3	4	5
	患者(利用者)に関わることで困ったことは、誰に聞けばいいのかわからない	1	2	3	4	5
⑰	患者(利用者)に関わることで困ったときには、まず電話してみようと思う人がいる	1	2	3	4	5
	患者(利用者)が利用できる地域の介護サービスがわかる	1	2	3	4	5
⑱	患者(利用者)が利用できる地域の医療資源やサービスがわかる	1	2	3	4	5
	利用できる地域の医療資源やサービスについて具体的に患者(利用者)や家族に説明できる	1	2	3	4	5
⑳	退院や入院のときに、相手がどんな情報を必要としているかを考えて申し送りをしたり、情報提供を行ったりしている	1	2	3	4	5
	在宅(施設)に移行する患者(利用者)については、退院時にカンファレンスや情報共有をしっかりと行っている	1	2	3	4	5
㉑	退院する患者(利用者)について、急に容体が変わったときの対応や連絡先を決めている	1	2	3	4	5

在宅医療・介護連携推進事業調査【保険薬局 -施設票-】  
**管理者の方がご回答下さい**

福井小紀子(大阪大学) 在宅医療介護従事者における顔の見える関係評価尺度の適切性の検討. 日本在宅医学会誌. 16(1). 5-11. 2014.

問1. 貴施設の基本情報についてお伺いします。

在宅患者訪問薬剤管理指導料算定薬局の届出をされた理由 【該当の数字全てに】	1 診療報酬の制度ができる前から進んで訪問薬剤管理及び指導に取り組んできた
	2 患者に訪問薬剤管理及び指導を要する者がいた
	3 患者から訪問を望まれた
	4 処方医から訪問による薬剤管理及び指導の依頼があった
	5 今後、在宅医療の一層の強化が必要となると考えた
	6 訪問による薬剤管理及び指導を行うにあたり診療報酬上有利であると考えた
	7 今後の在宅医療の取り組みに備えて予め届出をした
	8 その他( )

問2. 在宅医療の提供実績についてお伺いします。

平成30年1月の1ヶ月間【数値を記入】	訪問薬剤管理指導を実施した実人数	人
いずれも加算算定に関わらず記入 0人の場合は0を記入	薬剤師による居宅療養管理指導を算定した人数	人

問3. 在宅医療の推進についてお伺いします。

(1) 貴施設は、**地域の在宅医療の推進** に対して、どのくらい貢献できていると思いますか。

【地域全体を想定してあてはまると思われるもの1つに】	1.貢献 できている	2.やや貢献 できている	3.あまり貢献 できていない	4.貢献 できていない
	1	2	3	4

(2) 在宅医療・介護連携の推進のために必要だと考えることについてお伺いします。

【必要性の高いものから順に3つまで】	1 関係機関のリスト・連絡先等の提供
	2 現状・課題、対応策を検討・共有する協議の場
	3 連携で困ったときに相談できる窓口
	4 各施設・職種の役割について理解を深める機会
	5 介護側のための医療知識の習得・向上の機会
	6 医療側のための介護知識の習得・向上の機会
	7 情報共有ツール(シート等)の統一
	8 在宅医療にかかる負担の軽減(主治医・副主治医の導入など)
	9 在宅医療にかかる施設基準の緩和
	10 診療報酬・介護報酬の評価(増額)
	11 患者・家族の在宅療養に関する普及・啓発
	12 その他( )
	13 特になし

(3) 在宅医療の今後の意向についてお伺いします。

貴施設による在宅医療の取り組みに関する今後の意向 【1つに】	1 現在の取り組みを当面維持していきたい
	2 現在より充実していきたい
	3 現在より縮小していきたい
	4 現在は取り組んでおらず今後も予定はない
	5 その他( )

管理者の方がご回答下さい

問4. 在宅医療の提供状況及び連携状況等についてお伺いします。

(1) 貴施設における退院前カンファレンスなどの状況について。

	(これまで要請されたことがある)			(これまで要請されたことがない)		
	1.基本的に出席している	2.ケースによっては出席している	3.出席は困難である	4.要請されれば基本的には出席したい	5.要請されればケースによっては出席したい	6.要請されても出席は困難である
病院からの退院前カンファレンスへの出席要請有無(退院予定の患者が在宅での療養に在宅サービスを利用する必要がある場合に開催するもの)【1つに】	1	2	3	4	5	6
ケアマネジャーからのサービス担当者会議への出席要請有無及び対応【1つに】	1	2	3	4	5	6
市や医師会等開催の在宅医療・介護の多職種の研修会等への参加の有無【1つに】 平成29年1月～12月の1年間	1 参加したことがある (回数もご回答下さい)			a. 1～5回 b. 6～9回 c. 10回以上		
	2 参加したことはないが、これまで参加を検討したことはある			3 参加したことはない・知らない		

(2) 貴施設は、地域の他職種・他機関と、全般的に、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。

【地域全体を想定してあてはまると思われるもの1つに】	1.連携できている	2.やや連携できている	3.あまり連携できていない	4.連携できていない
		1	2	3

(3) 貴施設は、地域の他職種・他機関と、それぞれ、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。

【地域全体を想定してあてはまると思われるもの1つに】	1.連携できている	2.やや連携できている	3.あまり連携できていない	4.連携できていない
病院の医師・看護師	1	2	3	4
病院の地域連携室	1	2	3	4
診療所・医師	1	2	3	4
歯科診療所・歯科医師	1	2	3	4
他の保険薬局・薬剤師	1	2	3	4
訪問看護事業所・訪問看護師	1	2	3	4
居宅介護支援事業所・ケアマネジャー	1	2	3	4
訪問介護事業所・ヘルパー	1	2	3	4

管理者の方がご回答下さい

(4) 貴施設は、患者の在宅療養における各場面において、地域の他職種・他機関とどのくらい各種情報についての意見交換・共有ができていますか。

【地域全体を想定してあてはまると思われるもの1つに】	1.共有等できている	2.やや共有等できている	3.あまり共有等できていない	4.共有等できていない
入院時における入院患者の情報	1	2	3	4
退院時における退院患者の情報	1	2	3	4
日常生活(在宅)療養時の患者の医療情報	1	2	3	4
日常生活(在宅)療養時の患者の生活情報	1	2	3	4
患者の緊急時の対応方針	1	2	3	4
看取りについての対応方針	1	2	3	4

問5. 大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」についてお伺いします。

連携相談支援室について【1つに】	1 知っており、実際に相談・連携をしたことがある 2 知っているが、実際に相談・連携をしたことはない 3 知らなかったが、今後は相談・連携したいと思う 4 知らなかったし、今後も相談・連携はしないと思う
------------------	--

大阪市では、各区に地区医師会等への委託により、医療・介護関係者からの相談等に応じるため、在宅医療・介護連携支援コーディネーターを配置した「在宅医療・介護連携相談支援室」を設置しています。  
【詳細については同封のチラシをご覧ください】

問6. 大阪市の在宅医療・介護の連携上の課題や推進に関するご意見がありましたらご記入頂きますようお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。

## 在宅医療・介護連携に関する施設調査 ご協力をお願い

平素より、在宅医療・介護連携の推進にご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

大阪市では、市民が高齢期においても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、介護保険法に基づく「在宅医療・介護連携推進事業」を実施しております。

このたび、日ごろより在宅医療にご尽力いただいております皆様のご意見をお聞かせいただき、在宅医療と介護の連携における課題や多職種間の連携を図るための基礎資料及び評価指標を得ることで、今後の取り組みに活かしていけるよう、調査を実施させていただくことといたしました。

ご協力いただいた調査の内容は、全て統計的な数値として取りまとめたくえ、現状・課題分析等のみに活用し、個別の機関や個人に関する内容を公表することは一切ございません。

関係機関の皆様におかれましては、ご多忙の中大変恐縮ではありますが、本調査の主旨をご理解いただき、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、本調査については、(株)富士通総研に委託して実施しております。

平成 30 年 2 月

(調査実施主体) 大阪市健康局

健康推進部健康施策課

電話：06-6208-9940

### (1) 調査票について

・本調査票は、大阪市内の全ての訪問看護事業所にお送りしております。

・調査票は【施設票】と【個人票】の2種類あります。

施設票...管理者の方が施設としての状況や意向等をご回答ください。

個人票...管理者（管理者が訪問看護に従事していない場合は他の訪問看護師の方）が個人としての主観をご回答ください。

### (2) ご回答について

・設問をお読みいただき、選択肢の中であてはまる番号に をつけてください。

・設問によっては数値をご記入ください。

・必要に応じて自由記述欄（ ）にもご記入をお願いいたします。

### (3) 返信方法について

・FAX、Web、郵送、のいずれかの方法でお送りください（裏面にそれぞれの提出方法を記載しております）

・特に断りのない場合は、平成 30 年 2 月 1 日現在の状況についてお答え下さい。

・ご回答は、郵送の場合は平成 30 年 3 月 7 日(水)までにポストに投函を、FAX 及び Web の場合は平成 30 年 3 月 9 日(金)23 時 59 分までに送信・入力をいただきますようお願いいたします。

## 1 . FAX で回答する方法

調査票に回答をご記入頂き、以下の番号までお送りください

【 03-5401-8402 (受信専用 FAX) 】

## 2 . Web で回答する方法

以下の URL にアクセス頂き、案内に添って各設問にご回答ください

【 <http://www.zaitakuosaka.jp> 】

TOP 画面で施設の種類を選択してください

最初に、同封の調査票の右上に記載されている 6 桁の番号を入力ください（関係者外の回答防止のため）

回答内容の途中保存はできませんので予めご了承ください

## 3 . 郵送で回答する方法

調査票に回答をご記入頂き、同封の返信用封筒にてご郵送ください

切手を貼らずにそのままご投函ください

< 本調査に関するお問合せ先 >

調査票の内容について 株式会社 富士通総研（本調査受託事業者） 担当 赤田

電子メール：akada.keigo@jp.fujitsu.com

電話： 03-5401-8416（専用ダイヤル）

FAX： 03-5401-8402（専用 FAX）

在宅医療・介護連携推進事業調査【訪問看護 -施設票-】

管理者の方がご回答下さい

問1. 貴施設の基本情報についてお伺いします。

右の職種別職員数 【数値を記入】	看護師（保健師・ 助産師・准看護師含 む）	常勤 _____人	非常勤 _____人
	OT・PT・ST	常勤 _____人	非常勤 _____人
施設の開設主体 (母体) 【1つに】	1 医療法人（社会医療法人含む）		
	2 医師会		
貴施設自体の法人形態 ではなく開設主体につ いてご回答下さい	3 社団法人・財団法人（医師会以外）		
	4 社会福祉法人		
貴施設に併設する施設 【該当するもの全てに】	5 協同組合・NPO		
	6 営利法人（会社）		
併設なし	7 その他（ _____ ）		
	8 その他（ _____ ）		
施設の開設時期 【数値を記入】	西暦 _____年 _____月		

問2. 訪問看護サービスの提供実績についてお伺いします。

施設基準の届出の状況 【該当するもの全てに】	介護保険関係		医療保険関係		
	1 緊急時訪問看護加算	5 24時間対応体制加算	6 24時間連絡体制加算	7 特別管理加算	8 ターミナルケア療養費
平成30年1月の1ヶ月 間の実績等 【数値を記入】	(請求区分)	介護保険のみ	医療保険のみ	医療・介護併用	
	利用実人員数	_____人	_____人	_____人	
いずれも加算算定に関 わらず 0人・回の場合は0を記 入	訪問回数の合計	_____回	_____回	_____回	
	訪問看護の新規利用 (受け入れ)者数	_____人	_____人	_____人	
	死亡した利用者数	_____人	_____人	_____人	
	うち、在宅で死亡 した利用者数	_____人	_____人	_____人	

問3. 在宅医療の推進についてお伺いします。

(1) 貴施設は、**地域の在宅医療の推進** に対して、どのくらい貢献できていると思いますか。

【地域全体を想定してあてはまると思われる もの1つに】	1. 貢献 できている	2. やや貢献 できている	3. あまり貢献 できていない	4. 貢献 できていない
	1	2	3	4

【訪問看護事業所 -施設票-】

在宅医療・介護連携推進事業調査【訪問看護 -施設票-】

管理者の方がご回答下さい

(2) 在宅医療・介護連携の推進のために必要だと考えることについてお伺いします。

【必要性の高いものから順 に3つまで】	1 関係機関のリスト・連絡先等の提供
	2 現状・課題、対応策を検討・共有する協議の場
	3 連携で困ったときに相談できる窓口
	4 各施設・職種の役割について理解を深める機会
	5 介護側のための医療知識の習得・向上の機会
	6 医療側のための介護知識の習得・向上の機会
	7 情報共有ツール（シート等）の統一
	8 在宅医療にかかる負担の軽減(主治医・副主治医の導入など)
	9 在宅医療にかかる施設基準の緩和
	10 診療報酬・介護報酬の評価（増額）
	11 患者・家族の在宅療養に関する普及・啓発
	12 その他（ _____ ）
	13 特になし

(3) 在宅医療の今後の意向についてお伺いします。

貴施設による訪問看護の 取り組みに関する今後の 意向 【1つに】	1 現在の取り組みを当面維持していきたい
	2 現在より充実していきたい
	3 現在より縮小していきたい
	4 その他（ _____ ）

問4. 在宅医療の連携状況等についてお伺いします。

(1) 貴施設における退院前カンファレンスなどの状況について。

	(これまで要請されたことがある)			(これまで要請されたことがない)		
	1. 基本的に 出席して いる	2. ケースに よっては出 席している	3. 出席は 困難である	4. 要請され れば基本的 に出席 したい	5. 要請され ればケース によっては 出席したい	6. 要請され ても出席は 困難である
病院からの退院前カンファレンスへの出席 要請有無(退院予定の患者が在宅での療 養に在宅サービスを利用する必要がある 場合に開催するもの)【1つに】	1	2	3	4	5	6
ケアマネジャーからのサービス担当者 会議への出席要請有無及び対応 【1つに】	1	2	3	4	5	6
市や医師会等開催の在宅 医療・介護の多職種の研 修会等への参加の有無 【1つに】	1 参加したことがある (回数もご回答下さい)	a. 1～5回 b. 6～9回 c. 10回以上				
	2 参加したことはないが、これまで参加を検討したことはある					
平成29年1月～12月の1 年間	3 参加したことはない・知らない					
介護職を含めた、地域で の自主的な研修会等の 取り組みの有無 【1つに】	1 貴施設で開催したことがある (回数もご回答下さい)	_____回/年				
	2 貴施設で開催したことはない	a. 今後予定がある・検討した い b. 今後開催の予定はない				
平成29年1月～12月の 1年間の状況						

【訪問看護事業所 -施設票-】

在宅医療・介護連携推進事業調査【訪問看護 -施設票-】

管理者の方がご回答下さい

(2) 貴施設は、地域の他職種・他機関と、**全般的に**、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。

【地域全体を想定してあてはまると思われるもの1つに】	1.連携 できている	2.やや連携 できている	3.あまり連携 できていない	4.連携 できていない
	1	2	3	4

(3) 貴施設は、地域の他職種・他機関と、**それぞれ**、どのくらい連携(連絡、相談、調整、意見交換、情報共有等)できていると思いますか。

【地域全体を想定してあてはまると思われるもの1つに】	1.連携 できている	2.やや連携 できている	3.あまり連携 できていない	4.連携 できていない
病院の医師・看護師	1	2	3	4
病院の地域連携室	1	2	3	4
診療所・医師	1	2	3	4
歯科診療所・歯科医師	1	2	3	4
保険薬局・薬剤師	1	2	3	4
他の訪問看護事業所・訪問看護師	1	2	3	4
居宅介護支援事業所・ケアマネジャー	1	2	3	4
訪問介護事業所・ヘルパー	1	2	3	4

(4) 貴施設は、患者の在宅療養における各場面において、地域の他職種・他機関とどのくらい各種情報についての意見交換・共有ができていると思いますか。

【地域全体を想定してあてはまると思われるもの1つに】	1.共有等 できている	2.やや共有等 できている	3.あまり共有等 できていない	4.共有等 できていない
入院時における入院患者の情報	1	2	3	4
退院時における退院患者の情報	1	2	3	4
日常生活(在宅)療養時の患者の医療情報	1	2	3	4
日常生活(在宅)療養時の患者の生活情報	1	2	3	4
患者の緊急時の対応方針	1	2	3	4
看取りについての対応方針	1	2	3	4

問5. 大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」についてお伺いします。

連携相談支援室についての認知と利用実績【1つに】	1 知っており、実際に相談・連携をしたことがある 2 知っているが、実際に相談・連携をしたことはない 3 知らなかったが、今後は相談・連携したいと思う 4 知らなかったし、今後も相談・連携はしないと思う
--------------------------	--

大阪市では、各区に地区医師会等への委託により、は医療・介護関係者からの相談等に応じるため、在宅医療・介護連携支援コーディネーターを配置した「在宅医療・介護連携相談支援室」を設置しています。(詳細については同封のチラシをご覧ください)

在宅医療・介護連携推進事業調査【訪問看護 -施設票-】

管理者の方がご回答下さい

問6. 大阪市の在宅医療・介護の連携上の課題や推進に関するご意見がありましたらご記入頂きますようお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。

在宅医療・介護連携推進事業調査【訪問看護（個人票）】  
**管理者（訪問看護に従事していない場合は他の訪問看護師の方）が  
 個人の主観として、ご回答下さい**

(1)あなたご自身の立場【1つに】		(2)あなたご自身の訪問看護の通算経験年数				
1 管理者	2 管理者以外の従事者	およそ _____ 年				
(3)あなたは、ご自身の仕事に満足感を感じていますか。 【1つに】		1.感じて いる	2.やや 感じている	3.あまり 感じていない	4.感じて いない	
		1	2	3	4	
(4)あなたは、地域の他職種・他機関と、どのくらい連携（連 絡、相談、調整、意見交換、情報共有等）できていると 思いますか。【1つに】		1.連携 できている	2.やや連携 できている	3.あまり連携 できていない	4.連携 できていない	
		1	2	3	4	
(5)あなたが職務を行う地域での状況についての質問です。あなたご自身 について、最もあてはまるもの1つに つつけて下さい。		1.そう 思わ ない	2.あま りそ う思 わ ない	3.どち らで も ない	4.少 しそ う思 う	5.そ う 思 う
他の施設 の関係者 とやりとり	患者（利用者）と一緒にみている他の施設の関係者に知りたい ことを気軽にきける	1	2	3	4	5
	一緒にみている患者（利用者）のことで連絡をとるときに、躊躇 （ちゅうちょ）せずに連絡ができる	1	2	3	4	5
	一緒にみている患者（利用者）のことで連絡のとりやすい時間 や方法が分かる	1	2	3	4	5
地域の他 の職種の 役割	患者（利用者）に関わる地域の他の職種の困っていることがだ いたいわかる	1	2	3	4	5
	患者（利用者）に関わる自分以外の職種の動き方が実感をも ってわかる	1	2	3	4	5
	患者（利用者）に関わる自分以外の職種の出来ることがわかる	1	2	3	4	5
地域の関 係者の名 前と顔・考 え方	地域で患者（利用者）に関わっている人の、名前と顔、考え方や 方針がわかる	1	2	3	4	5
	地域で患者（利用者）に関わっている施設の理念や事情がわか る	1	2	3	4	5
	地域で患者（利用者）に関わっている人の、性格、つきあい方が わかる	1	2	3	4	5
地域の多 職種で話 し合う機 会	患者（利用者）に関わるいろいろな職種が直接会って話す機会 がある	1	2	3	4	5
	普段交流のない多職種で話し、新しい視点や知り合いを得る機 会がある	1	2	3	4	5
	地域連携に関して、課題や困っていることを共有し話し合う機 会がある	1	2	3	4	5
地域の相 談できる ネットワ ーク	患者（利用者）に関わることで、気軽に相談できる人がいる	1	2	3	4	5
	患者（利用者）に関わることで困ったことは、誰に聞けばいいの かだいたいわかる	1	2	3	4	5
	患者（利用者）に関わることで困ったときには、まず電話してみ ようと思う人がいる	1	2	3	4	5
地域のリ ソース（資 源）	患者（利用者）が利用できる地域の介護サービスがわかる	1	2	3	4	5
	患者（利用者）が利用できる地域の医療資源やサービスがわか る	1	2	3	4	5
	利用できる地域の医療資源やサービスについて具体的に患者 （利用者）や家族に説明できる	1	2	3	4	5
病院と地 域の連携	退院や入院のときに、相手がどんな情報を必要としているかを 考えて申し送りをしたり、情報提供を行ったりしている	1	2	3	4	5
	在宅（施設）に移行する患者（利用者）については、退院時にカ ンファレンスや情報共有をしっかりと行っている	1	2	3	4	5
	① 退院する患者（利用者）について、急に容体が変わったときの 対応や連絡先を決めている	1	2	3	4	5

福井小紀子（大阪大学）在宅医療介護従事者における顔の見える関係評価尺度の適切性の検討、日本在宅医学会誌、16(1)、5-11、2014.